

メディアの役割問う

新潟 ジャーナリストカフェ



メディアの役割などについて意見を交わす大越健介さん（左）ら＝10日、新潟市西区

第一線で活動するジャーナリストと報道について考える「ジャーナリストカフェin新潟」が10日、新潟市西区の新潟大学で開かれた。テレビ朝日「報道ステーション」のキャスター大越健介さん、新潟市出身の元フリーランス記者ららが登壇し、交流サイト（SNS）上でさまざまな情報が拡散される中で、メディアに問われる役割について意見を交わした。

新潟日報社が主催し、今回で3回目。大学生ら約150人が参加した。大越さんのほか、「スロニニュース」シニアコンテンツプロデューサーの熊田安伸さん、共同通信社編集局長の有田司さん、新潟日報社報道部の江森美奈子記者らが登壇した。

大越さんは、多様性などの価値観が世界中で危機にさらされていると指摘。「情報の捉え方を間違えてしまうと、偽情報などに身も心も持っていけるかもしれない。（メディアが）最後のとりでとなるよう頑張っている」と語った。

県内の海や川の恵みを見つめる本紙長期企画「碧のシグナル」を担当する江森記者は、後継者不足に悩む漁師らへの取材は「記録性の役割も大きい」と語った。

新潟大法学部3年でメディア志望の池澤悠さん（22）は「情報に解説を加えるメディアの重要性に気付かされた」と話した。

新潟大法学部の益田高成准教授（政治学）を加えたパネルディスカッションでは、学生ら参加者も交えて、メディアリテラシーの在り方などを議論した。

新潟大法学部3年でメディア志望の池澤悠さん（22）は「情報に解説を加えるメディアの重要性に気付かされた」と話した。